

船舶インシデント調査報告書

令和4年3月23日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（機関故障）
発生日時	令和3年5月3日 16時00分ごろ
発生場所	三池港 三池港北防砂堤灯台から真方位297° 1.2海里付近 （概位 北緯33° 00.8′ 東経130° 22.3′）
インシデントの概要	プレジャーボート藤電丸は、漂流中、前後進操作ができなくなり、運航不能となった。
インシデント調査の経過	令和3年5月11日、主管調査官（長崎事務所）を指名原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 藤電丸、3トン 291-39239福岡、株式会社藤木電気工業 ディーゼル機関、船内外機、4サイクル、出力132.40kW、6気筒、回転数毎分3,600、ボア94mm、使用燃料軽油、平成12年2月進水
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 2 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
インシデントの経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人4人を乗せ、漂流して釣りを行った後、帰港しようとして主機を始動し、操縦レバーを前進側に操作したところ、主機の回転数は上昇するものの前進できず、後進側に操作しても後進できずに運航不能となった。</p> <p>本船は、船長が、海上保安庁に救助要請を行い、来援した巡視艇にえい航されて、三池港に入港した。</p> <p>主機は、本インシデント後、機関修理業者が点検したところ、主機のアウトドライブのドライブギア及びクラッチ板が摩耗して生じた鉄粉により前後進切換弁に傷が付いて油圧が低下し、前後進の切換えができなくなったことが判明した。</p> <p>船長は、本船を令和元年4月に中古で購入し、2週間に1回程度、釣りの目的で使用しており、本インシデント発生まで操縦レバーの操作に異状を認めていなかった。</p> <p>本船は、船長が機関修理業者に依頼して消耗品の交換などの整備が行われていたものの、アウトドライブの開放点検が行われたことはなかった。</p>
分析	本船は、船長が本船を約2年前に中古で購入して以来、主機のアウト

	<p>トドライブの点検が実施されず、また、船長が操縦レバーの操作に異状を認めていない中、主機を始動して漂泊中、船長が操縦レバーを前後進側に操作した際、ドライブギア等が摩耗して生じた鉄粉により前後進切換弁が損傷したことから、油圧が低下して前後進の切換えができなくなり、運航不能となったものと考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、船長が本船を約2年前に中古で購入して以来、主機のアウトドライブの点検が実施されず、また、船長が操縦レバーの操作に異状を認めていない中、主機を始動して漂泊中、船長が操縦レバーを前後進側に操作した際、ドライブギア等が摩耗して生じた鉄粉により前後進切換弁が損傷したため、油圧が低下して前後進の切換えができなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、機関修理業者に整備を依頼する際は、定期的に出ドライブの開放整備を含めた点検を依頼すること。